

ボックスチャーター「JITBOXチャーター便」

コスト、納期、輸送品質、環境対応など 様々な経営課題を一挙に解決する物流サービス

四方を頑丈な柵で覆われ、底部に移動用のキャスターがついた「ロールボックスパレット（以下、RBP）」——。この縦横約1メートル・高さ1.7メートルの貨物輸送用コンテナ単位で、1本から貸切輸送のサービスを提供する「JITBOXチャーター便」が物流に大きなイノベーションを起こしつつある。サービス開始以来、取扱本数をぐんぐん伸ばし2008年度には50万本を超える見込みだ。その理由は、物流コストを削減できることに加え、ジャストインタイムの配送や、高いレベルの輸送品質を実現しているからだ。なぜ、同サービスにそれだけの付加価値が生まれるのか。ボックスチャーターで代表取締役社長を務める小佐野豪績氏に話を聞いた。

運送会社15グループが参加し トータルで物流効率を高める

2008年後半以降、米国発の金融危機に端を発した世界的な経済不況が、日本の企業経営にも大きな影を落としている。製造業は減産に踏み切り、販売・流通業も在庫調整に躍起になっている。

多くの企業では生き残りをかけてコスト削減に注力しているが、SCM（サプライチェーン・マネジメント）全体を見た時には、簡単に削れないコストもある。そのひとつが、物流コストだ。

この状況について、ボックスチャーターで代表取締役社長を務める小佐野豪績氏はこう説明する。「物流コストの削減は、難しい側面を持っています。物量が減っても納期は厳守する必要があります。そのため、輸送の頻度を落とすわけにはいきません。また、積載する貨



「JITBOXチャーター便」は、四方を頑丈な柵で覆われた縦横約1メートル・高さ1.7メートルの貨物輸送用コンテナで、底部に移動用のキャスターがついたRBP1本から貸切輸送サービスを提供。複数の納品先に同時に届けるなど、顧客企業の細かいニーズに応じたサービスを実現している。

物量が半減したからといって、トラックの荷台を半分にしてコストを半分にするわけではありません。つまり、『輸送ロット』と『輸送形態』の間にギャップが生じてしまっているのです」

こうした観点から、急速に注目を集めるようになったのが、同社の提供する「JITBOXチャーター便」である。これは、RBPと呼ばれるキャスターつきの貨物輸送用コンテナ単位で、1本から貸切輸送のサービスを提供するもの。このシンプルなサービスが、物流に大きなイノベーションを起こしつつある。「これまで、顧客の選択肢は、小口の宅配便かトラックの貸切輸送のような大口の輸送のみ。その中間の物流サービスは、ほとんどありませんでした。そこで生まれたのが、中ロットに特化した「JITBOXチャーター便」でした」

このコンセプトは、ヤマト運輸の現場からでてきたものである。元来、RBPは宅急便の輸送効率を高めるための社内用ツールとして開発された。しかし、実際の営業現場では、顧客からの要望に応じて、時にこれを貸し出すことがあり、RBP単位の貸切輸送という発想に結びついた。

「この発想をもとに新しい業態をつくることにしたのですが、スピーディな市場展開や顧客の利便性の最大化を考えると、ヤマト運輸だけで新サービスを成長させるには限界があります。そ

こで、各地域で最も有力な運送会社に参加してもらうことにしました」（小佐野氏）。その結果、現在では、セイノーホールディングス、日本通運など15グループが、加盟販売会社（フランチャイジー）としてJITBOXチャーター便を取り扱っている。フランチャイジー各社はそれぞれが営業や集荷を行い、都市間の幹線輸送や配達業務は、それぞれを担当する他のフランチャイジーに委ねる。こうして、全体の物流効率を高めているのだ。

「顧客にとっては、貨物量がトラック1台に満たない場合でも、1台分の料金を支払う必要がなくなるため、物流コストのダウンにつながる。また、運送会社にとっても、トラックの空きスペースを埋めることができるため、輸送効率のアップにつながり、双方にメリットがある仕組みなのです」と小佐野氏は補足する。

梱包の手間とムダを簡素化し スピードアップとエコを同時に実現

同サービスのメリットは、コストの削減だけにとどまらない。JITBOXチャーター便の名前の由来になっている通り、JIT（Just In Time）の利便性に目を向ける顧客も多いという。

特にメリットが大きいのは、納品時間の制約が厳しいにもかかわらず、多拠点に貨物を届けなければならないケースだ。例えば、1台のトラックを使って、



ボックスチャーター株式会社
代表取締役社長

小佐野 豪績氏

納期に対するニーズと物流コストの削減に対するニーズを両立したサービスとしての評価も高いが、実はそれ以外のメリットに着目する企業もある。

「現在では、ATMや複合機などの精密機械の輸送にも活用されています。従来、こうした機械は木枠で梱包するなど厳重に保護して輸送する必要がありました。これに対して、JITBOXチャーター便では、四方を頑丈な柵で覆われたRBPを利用して輸送するため、簡素な梱包で安心・安全に輸送することができます。また、梱包を簡素化できるため、出荷準備にかかる時間を短縮することができ、納品までのスピードアップにつながります。さらに、梱包材の廃棄量を大幅に減らせるため、環境にも貢献します」と小佐野氏は説明する。

また、「口割れ」リスクを極小化できるという側面もある。口割れとは、一度に複数の貨物を発送したとき、同時に届かないこと。例えば、イベントの展示用に什器と商品を送ったのに、商品の一部が遅れて到着するようなケースだ。JITBOXチャーター便なら、1本のRBPに様々なモノを詰め込むことができる。もともと、口割れ回避に適した仕組みなのである。



ロールボックスパレットの外観
1本のRBPには、重量600kgまでなら、様々な貨物を積載することができるため、「口割れ」リスクを回避できる。

QualityとQuick、地球に優しい サンキューサービスを提案

このように、高い輸送品質（Quality）と納品までの速さ（Quick）を両立させつつ、しかも地球に優しい。2つの「Q」と地球の「球」を合わせて、同社はJITBOXチャーター便のコンセプトを「サンキューサービス」と呼んでいる。一般に、3つの「キュー」の各要素やコストの問題は、どれもお互いにトレードオフの関係にあり、両立しにくいと捉えられてきた。それらすべてを満たすJITBOXチャーター便は、新しい物流形態として定着しつつある。

「今後は、このサービスの付加価値をさらに高めていきたいと考えています。具体的には、現状のLT（物流）に加え、宅急便と同様、IT（情報）を活用したRBP単位の貨物追跡サービスや、FT（決済）を活用した各種サービスを開発すること。顧客に喜ばれるサービスを一層拡充することにより、物流のデファクトスタンダードを目指します」と小佐野氏は力強く語った。

お問い合わせ

JITBOX チャーター便

ボックスチャーター株式会社

〒150-0043 渋谷区道玄坂1-16-5 大下ビル4階
フリーダイヤル：0120-978-541

資料請求はこちらまで URL：<http://www.jitbox.co.jp/>